

平成22年度安曇野市健康づくり推進協議会（第1回） 会議概要

- 1 審議会名.....平成22年度安曇野市健康づくり推進協議会（第1回）会議
- 2 日.....時.....平成22年6月24日.....午後1時30分から午後3時00分まで
- 3 会.....場.....穂高健康支援センター
- 4 出席者.....高橋委員、上條委員、大口委員（代理：石田）、清水委員、浅見委員
浅川委員、青柳委員、松岡委員、百瀬委員、重野委員、中澤委員
曾根原委員、藤森委員、竹岡委員（欠席：北沢委員）
- 5 市側出席者.....場々健康推進課長、佐藤課長補佐、宮澤課長補佐、塚田係長、小穴係長
丸山係長、岩崎課長補佐、高橋保健師、久保田保健師、青柳管理栄養士
笠井歯科衛生士、上条保健師
- 6 公開・非公開の別.....公開
- 7 傍聴人.....0人.....記者.....0人
- 8 会議概要作成年月日.....平成22年6月25日

協 議 事 項 等

- 1 会議概要
 - 1 開会
 - 2 委員の委嘱
 - 3 健康福祉部長挨拶（代理 場々課長）
 - 4 自己紹介
 - 5 安曇野市健康づくり推進協議会要綱について
 - 6 会長選出（会長 高橋委員）
 - 7 協議事項
 - （1）平成21年度保健事業報告について
 - （2）平成22年度保健事業計画について
 - （3）その他
 - 8 閉会
- 2 協議概要
 - （1）平成21年度健診結果について（2）平成22年度保健事業計画について（事務局説明）

（委員）松本地域出産・子育て安心ネットワークの現状はどうか。安曇野赤十字病院の産科はどうなっているか。

（事務局）市内で出産できる医療機関は穂高病院1箇所、助産院はウテキアニ1箇所、自宅訪問で出産を介助する助産院2箇所ある。松本地域出産・子育て安心ネットワーク協議会では、分娩できる医療機関と分娩まで経過をみる医療機関を分けて、分娩医療機関の負担を減らすようにしている。妊婦には共通診療ノートを渡して、医療機関が途中で変わっても経過が分かる体制にしている。

安曇野赤十字病院の産科については議会でも話題になっていた。病院の産婦人科病棟は7月1日のオープン時には閉鎖の状態。市でも産科医の確保を要請しているが、24時間体制となると常勤の医師が3名必要。信大も2名いるところに1名出す位はできるが3人はできない。日赤も県に要請はしているようだが、1度に3名を確保するのは難しい状況である。

（会長）松本圏域では出産のたらいまわしはない。最後には信大が受け入れをしてくれている。

- (委員) 医療救護マニュアルの検証をするということだが、医療救護所と（地域ではなく）各地区とのつながりというのは考えているのか。
- (事務局) 避難救護所を7箇所指定している。今年度の避難訓練は本部と避難救護所との訓練になる。
- (委員) 赤い冊子（医療救護マニュアル）が地区にまで下りてこず、支所で止まってしまっている。各区の防災の担当が分かっていない。
- (事務局) 防災は危機管理室が担当をしている。また会議を持つ中で、有効な対応をとっていききたい。
- (会長) 昨年度は新型インフルエンザの対応があり、救護マニュアルを地区に周知する説明会が開催できなかった。
- (委員) 子宮頸がんワクチンの公費負担について市の考え方を聞きたい。
- (事務局) 子宮頸がんワクチンは2009年12月に認可された。3回で4～5万円の費用がかかる。がんを予防できるワクチンは他にないため注目されている。県内19市でワクチンの補助をしているところはまだない。全国的には県で補助を出している所もある。議会でも質問がでている。市内の産婦人科の医師にも意見を聞いているところである。1学年分の女子300人×4～5万円という費用の問題と、どの学年に、どのような方法でやったらいいかということも検討しなくてはいけない。今後も情報を集めて検討していきたい。
- (委員) 育児支援をしていきたいということだが、市の虐待の状態はどうか知りたい。
- (事務局) 虐待の数は児童保育課で把握しており、この場では正確な数は持ち合わせていない。虐待防止のために健康推進課ではフォローの必要な人を継続してみていくことが重要と考えている。特に産後うつの特長が高い人にはフォローをしていく。
- (会長) 松本の乳児院の話では、母親のメンタル面の問題で育児ができない場合や、2度目3度目の新しい父親といったケースもあると聞いている。
- (委員) 産後うつのフォローをしていくことが虐待予防につながる。また、16ページにあるように乳幼児健診の未受診者対策も予防につながる。
- (委員) 新聞などの報道では健診の未受診者がいても行政で対応を怠っていたとよくある。少子化でもあり大事な子供を守っていただきたい。
- (事務局) 24ページにも訪問の様子が出ていて、訪問でフォローをしている。また、保健所や児童係と連携をして対応をしている。今後も引き続ききめ細やかな対応をしていきたい。
- (委員) 特定保健指導の実施数の根拠と昨年の実施率を教えてください。
- (事務局) 特定保健指導の実施数や率は、国保の計画で計画されていて21年度の計画では14%240人となっている。しかし安曇野市の特定保健指導の発生率が低いために、実際は対象者数が780人で実施見込み数が269人で実施率34.5%になっている。
- (委員) 自殺予防は健康推進課だけではなく、行政全体で取り組むことではないか。
- (事務局) 6ページの死亡数をみると平成20年では23人が自殺をしている。この背景は把握できない。昨年度の心の健康をまもるつどいでは、講師から自殺予防のためには周りが気づいてあげることが大切だと話がありPRできたと思う。今年度は保健所の事業で自殺予防のための3回コースの研修会が開催される予定である。保健所とタイアップしながら今後の取り組みを検討していきたい。

(委 員) 事業計画のその他の事業の中に「食育推進計画推進事業」とある。全国的にも食育というものが注目され報道もされているが、市の計画はどのようになっているか。

(事務局) (3) のその他でお話ししたい。

(会 長) 禁煙対策についてだが、昨年の協議会の中で子供が来る施設は禁煙にという話があったがどうなったか。

(事務局) 施設の禁煙状況については、これから調査する。できるだけ進めていきたい。

(委 員) 数年前に県で「おいしい空気の環境づくり推進」を始めたが市内の店や施設の状況はどうか。

(事務局) 数は把握していないが、公的な施設で増やしていきたい。

(委 員) 自分が長をしていた時に三郷の公民館では実施した。

(3) その他について

(会 長) 「たべたくん」のPRはしているか。

(事務局) 広報に掲載するなどしている。学校の献立だよりも載せてもらう予定。今年度はポスターをつくる予定。

(委 員) 上田市に大塚貢という先生がいる。地産地消、発芽玄米にすることで非行やいじめが減ったという経験を持つので、講演会の講師にしたらどうか。